

研究概要

国際姉妹都市ゲートサインデザインに関する研究

－ 福岡市、釜山市の共同サインシステムの提案 －

本研究は、国際姉妹都市である福岡市と釜山市のゲート内における共同サインシステムの提案のため、既存ゲート（主に入国のための主要駅など）サインデザインの問題点及び製作に必要な項目の整備を行う。また、両都市の一般人、専門家などを対象にアンケート調査を行い、共同使用可能な標準化したゲートサインデザインのプリンシプル整理を行うことを目的としている。

研究背景は、世界経済のグローバル化が進む中で、EUと北米では国境を中心に地方対地方、地域都市対地域都市、小地域対小地域間の協力体系を強化し、国境を越えた地域発展と経済力を高め、国全体の経済力向上に貢献している。グローバル時代の都市経済力は都市集積と都市間のネットワーキングから発生する。グローバル化が年々進む中で、国と国同士よりは都市と都市間の連携、協力の方が益々重要視される。これからより多くの観光客誘致を目標とする釜山は、もはや国際都市でありこれからは国際都市としての役割が果たせる都市への変貌が必要である。さらに、釜山が国際都市へと成長するためには、各分野別において様々な計画と実践が必要である。

これを背景にして本研究では、韓国東南圏の中心地である釜山と日本九州圏の中心地である福岡との連携協定により、両国のグローバル経済力を高める案を探す。また、両都市の交流者が最初に接する釜山と福岡の主要ゲート（空港、旅客ターミナル、電車站）内の公共サインに対し共同サインデザインの提案を行う研究を行った。

各章別の内容と構成は以下の通りである。

第1章 序論

第1章では、研究の目的と研究全体の枠組みを示すことを目的としており、研究の背景と目的、先行研究、研究の方法、研究の構成について述べた。

第2章 コミュニティ・アイデンティティ

第2章では、基礎調査として国別、都市別コミュニティ・アイデンティティの事例を調査し、新規サインの提案のために、まず福岡市と釜山市が共同で実施した両都市の市民意識調査の分析を行った。

第3章 サインコミュニケーション

第3章では、サインコミュニケーションとして公共サインデザインとサインシステムについて述べる。公共サインデザインにおいては、その目的と構成要素、種類と機能、機能について理論的整理を行った。また、サインシステムにおいては、福岡市と釜山市のサインシステムについて内容と設置基準などについて整理を行った。

第4章 福岡-釜山のゲートサインデザイン提案のためのアンケート調査

第4章では、両都市の基礎調査資料をもとに、デザインの専門家グループに対するアンケート項目を導出し、これの活用により、デザイン設計を構成する。デザインの構成要素別にアンケートを分析し、ゲート内サインの視覚的デザイン条件を確立した。

第1回アンケート調査項目は、福岡-釜山のイメージ（都市のイメージカラー、代表催事、ランドマーク）、福岡-釜山のイメージ（主に利用するゲートとイメージ）、福岡-釜山の既存ゲート内におけるサインデザインの評価（サインデザインが良いと思われるゲート、ゲート内のサインデザインに関する評価）、福岡-釜山のゲート内における案内システムの改善事項（サインデザイン開発のための優先順位、サインデザインを標準化する必要性、標準化したサインデザインの貢献可能性、サインデザイン開発のためのアイデア）であった。

調査の結果から、釜山-福岡の既存ゲート内サインデザインの現状と課題を探ることができた。また、福岡-釜山の都市グランドイメージ分析と既存ゲート（空港、駅、港など）のサインデザインの評価、案内システムの改善事項からプランニング要素が把握できた。

第2回アンケート調査では、2012 World Airports Awards 10 空港のサインデザインに対して、明視性、注目性、可読性、矢印、フォントデザイン、レイアウト及びゲートサインデザインの情報伝達要素を項目とした。

また、調査の結果から、現在デザイン評価が高いグローバルの主要空港サインデザインを評価及び分析することで、グローバルサインの在り方を評価することができた。また、主要デザイン要素を把握することで、本調査の準備を行った。

第3回アンケート調査では、ゲート内サインデザインの提案を行うために、まず矢印とタイポグラフィ（日本語、韓国語、英語、中国語）を項目とした。矢印は、世界優秀の空港で広く使用されている ISO 規格、JIS 日本工業規格、IATA 国際航空運送協会、IATA 国際航空運送協会変形型を対象とした。また、フォント（日本語、韓国語、英語、中国語）は、各国で最も広く使用されている7つのフォントを対象とした。

また、調査の結果から、それぞれ1つの矢印、フォントが選定された。

第4回アンケート調査では、情報伝達の構成要素であるタイポグラフィ（構成、書体、字間、行間、長体）、ピクトグラム（適用形態、位置及びサイズ）、色彩（地、書体）、レイアウト（構成）、文字以外の形（有無及び適用形態）の好感度を項目とした。

また、アンケート調査から得た結果を踏まえて、福岡-釜山における共同サインデザインとの提案とプリンシプル確立を行った。

第5章 考察

第5章では、考察とし、研究結果をもとにゲートサインのデザインプリンシプルを提案した。その後、福岡と釜山の主要ゲート内においても段階的に拡大を目指していく。

最後に、研究の示唆と課題を述べ、今後の研究のための提言を行った。